

ThorensTD124 の再構成(1)

ーカートリッジの変更ー

1. 始めに

ThorensTD124 のカートリッジを変更し、併せて Garad401 と位置を入れかえ、フォノイコライザーの ZANDEN Model120 に近づけ、フォノケーブルの中継による延長を軽減します。

2. ThorensTD124 の試聴方法

ThorensTD124 のカートリッジは、ThorensTD124 の導入(1)から ThorensTD124 の活用(5)まで、Ortofon SPU Synergy を使用してきました。Ortofon SPU Synergy は Garad401 用に回し、Ortofon の SPU Royal N に替えてみます。そして、シェルにはダンパーフレークを貼りつけます。



Garad401 と位置を入れかえることによりフォノケーブルの中継ケーブルを Vital Audio の2mから LINN のケーブルの 1.2m に替えて短縮します。

なお、アームダンパーはこれまでの状態を保持し、アームの CD クリーナー処理をやりなおします

再生対象は、事前に音質確認をした次の音源です。

LONDON 360R 56009

モーツアルト ディヴェルティメント第 17 番

ウィリーボスコフスキー指揮ウィーンモーツアルト合奏団

Angel AA-9117・C

ヘンデル メサイア

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

2. ThorensTD124 の試聴結果

音出しにより、フォノイコライザーの ZANDEN Model120 のアンバランス入力の不具合の修理は、部品の取り換えで修理が完了していることは確認できました。モーツアルトのディヴェルティメント第 17 番は、SPU シリーズらしからぬ SPU Royal N の繊細で緻密な表現が可能になっています。

ヘンデルのメサイアは、ここでも SPU Royal N の特徴が活かされ、合唱の分離など、音の緻密さが向上し、シュワルツコップの歌唱のニュアンスも向上しています。

4. まとめ

今回の変更点は、カートリッジの交換とフォノケーブルの中継ケーブルの短縮やダンパーフレークの貼り付けだけですが、SPU Royal N のゲイン不足は解消し、保有している SPU シリーズのカートリッジの中で、もっとも繊細な表現が可能な SPU Royal N の特徴を活かす目途がつけました。

以上